2019 年 2 月 28 日
NPO 法人　地域の未来・志援センター

豊かな自然を活かすネットワーク in 名古屋

「山・川・里・海　情報交流会」開催速報

～そろそろ真剣に向き合ってみませんか!?　“次世代からのメッセージ”～

●開催日…2019 年 2 月 23 日（土）　10：30～18：30

●会場……名古屋国際センター５Ｆ　第一会議室（名古屋市中村区那古野 1 丁目 47-1）

●主催……NPO 法人地域の未来・志援センター/一般財団法人セブン-イレブン記念財団

●共催……22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO 法人森と水辺の技術研究会

●協力……愛知・川の会、渥美半島環境活動協議会、西濃環境ＮＰＯネットワーク、
NPO 法人泉京・垂井、東海市民社会ネットワーク、
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、NPO 法人四日市ウミガメ保存会

●後援……愛知県、岐阜県、三重県、環境省中部地方環境事務所

●参加者数……　一般参加者 40 名（目標数 100 名）
＊前回、前々回のリピーター：9 名
＜事前申込み 42 名、当日参加 4 名、当日キャンセル 7 名＞
※スタッフ：理事 6 名、事務局 2 名

プログラム

時　間	内　容
10：30～10:40	**開会式** ◆趣旨説明＆主催者挨拶　地域の未来・志援センター 理事長　竹内ゆみ子
10：40～11:40	**第１部　基調講演　〈50 分間（予定）〉** **「ブルーカーボンと世代を超えた取り組みについて」** **講師：木村　尚（たかし）さん**（NPO 法人 海辺つくり研究会 理事・事務局長）
11：40～11：55 11:55～12：30 12：30～13：05 13：05～14：25 14：25～14：45	**第２部　次世代がつくワークショップ「何を想う！？イマドキの大学生」** **①　活動発表** １．　22 世紀奈佐の浜プロジェクト紹介 発表者：平野　智也さん（四日市大学） ２.「いい川・いい川づくりワークショップ 」準グランプリ受賞 発表者：見屋井一輝さん（岐阜大学 OB） ３．学生交流会～学生環境会議～石徹白での合宿～情報交流会へ 発表者：加藤 榛菜さん（岐阜大学 OB） **②　アイスブレイク** ９つのグループに分かれて「ワードウルフ」を実施 ～＊～＊～　昼食を取りながらランチミーティング　～＊～＊～ **③　ワークショップ「面白い環境活動を考えよう」** ～＊～＊～　グループ発表タイム　～＊～＊～
14：45～14：55 14：55～16：30 16：30～17：00	**第３部　６つのテーマで分科会** **『とにかくお話』－あなたはこの日、何人と語り合えますか？** ◆分科会の内容と SDGｓの説明　事務局　河合良太 **◆6 つのテーマで分科会** 共有　ふりかえり 「次世代からのメッセージ」

	◆進行：地域の未来・志援センター 理事長　竹内ゆみ子 ◆講評：**木村　尚（たかし）さん**（NPO 法人 海辺つくり研究会 理事・事務局長）
17：00～17：10 17：10～17：30	～＊～＊～　アンケートタイム　～＊～＊～ **閉会** ◆あいさつ 22 世紀奈佐の浜プロジェクト「学生交流会」発起人 見屋井一輝さん 下田　菜生さん NPO 法人森と水辺の技術研究会　理事長　　野村典博さん （一財）セブン-イレブン記念財団事務局長　星　劭さん
17：30～17：40	**記念撮影**
17：40～18：30 (2 時間 30 分)	**気軽な懇親会（ラウンジにて）**

★終了後、会場を移し、講師を囲んでの懇親会を実施（参加者：25 名参加）★

【ご挨拶・趣旨説明】

↑司会を務める事務局河合（左）と永田理事（右）

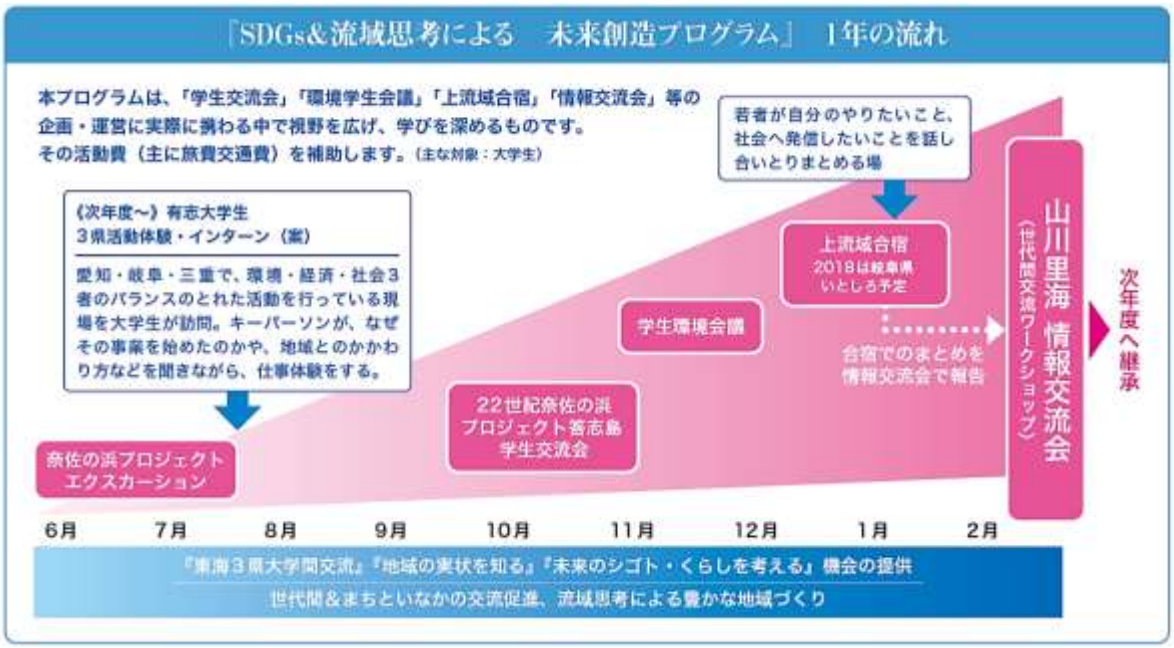
主催者あいさつ→
竹内理事長

◆趣旨説明（要旨）

ネットワーク組織との協働・プロセス重視の第４弾！

『豊かな自然を活かすネットワーク』情報交流会は2016年度の愛知県渥美半島からはじまり、2017年度は岐阜県西濃地域揖斐川流域、昨年度は三重県北勢地域で開催し、今年で4回目です。それら開催であがった声をもとに、今年は世代間交流を狙いとしました。今、市民活動に限らず日本中が担い手不足です。人口減少・少子高齢化という社会的背景があり、こうした状況を突破するには従来通りの取り組みを続けるだけでは難しく、新たな発想・チャレンジが求められます。そのために、まずはコミュニケーションが不足しがちなベテランと若者が一堂に会し、想いや意見、それぞれの将来展望等をぶつけあう場をつくってみてはどうだろうか……本企画はそんな思いから生まれました。皆さまの活動に新たな視点が生まれることを期待しています。

◆情報交流会までのプロセス



第１部【基調講演】ブルーカーボンと世代を超えた取り組みについて

【講演よりダイジェスト】

「アマモ場再生の取り組み」～何のため？を常に問う

ただ単に、環境保全のためにアマモ場再生の機運を高めるだけではなく、「様々な課題を共有し理解を進める」こと、「解決に向けた努力を積み重ねる」こと、「助け合いながら皆で取り組んでいく」ことを確認しながら行っている。行政や科学者だけの枠組みでなく、様々な企業、漁業者、NPO、一般市民、学生など多様な人々が集って議論できる場をつくったことが重要であったと考えている。次のようなことを確認しながら進めている。

＊水産振興としての重要性を訴えること
＊多様な参加者を誘引し、活動の輪を広げること
＊海と共に生きてきた意識を取り戻し次世代の育成を図ること
＊ブルーカーボンとして CO_2 の吸収固定に寄与すること

アマモも育ったが、一番育ったのは人間だった！が理想

第１回の神奈川県開催に始まり、これまで 11 回の開催を数える『全国アマモサミット』。一番大きかった効果は、全国の人がつながったこと、想いを同じくする全国の人がつながってコミュニケーションを継続させ、社会のシナプスをつなぎ直していることだと思っている。人間も生態系の一員。アマモ場再生の活動でつながることが、生態系の一員である人間自体を正常に機能させることにつながり、それが子供たちの笑顔に代表される健全な育成、子育てしやすいまちづくりになっていくと考えている。こうした枠組みの中で人間自身が成長することで、持続可能な社会の原動力が生まれるはずだと信じている。

↑会場からは数多くの質問が

第２部　次世代がつくるワークショップ『何を想う？イマドキの大学生』①

アイスブレイクのメンバーで昼食タイム。ベテラン・若者混在グループで世代間交流。会話が弾みました！

↑活動報告

↑アイスブレイク「ワードウルフ」

↑ランチミーティングの様子

ワークショップの概要

22 世紀奈佐の浜プロジェクト（以下、奈佐の浜ＰＪ）から生まれた「学生交流会」のメンバーが中心となり、ワークショップを行いました。１年を通した取り組みの報告から始まり、アイスブレイク、ランチミーティング、「面白い環境活動を考える」ワールドカフェが行われました。

「学生交流会」のメンバーの活動報告

奈佐の浜ＰＪの概要や、そこで行われた「近未来の環境・災害対策を考えるワークショップ」、「いい川・いい川づくりワークショップ in 北海道十勝」での事例発表の様子、地域づくりと環境をテーマに行った学生環境会議、岐阜県郡上市石徹白で行った合宿など、一年を通して取り組んだことの報告がありました。

アイスブレイクとランチミーティング

グループで話し合いを行う午後からのプログラムに向けて、アイスブレイクとランチミーティングを行いました。「ワードウルフ」というゲームの手法を使い、グループの緊張を徐々にほぐしていきます。昼食をとりながら自己紹介をするランチミーティングでは、アイスブレイクの効果もあり、世代や地域を超えて話が盛り上がりました。「これから何をやるんだろう？」と少し緊張が感じられる会場の雰囲気が一変し、わきあいあいあとした場になっていきました。

第２部　次世代がつくるワークショップ『何を想う？イマドキの大学生』②

↑小浦さんのごあいさつ

↑ワークショップの様子

↑地域や世代を超えての対話

↑「えんたくん」を使いました

↑発表の様子

↑こちらの発表者は高校生でした

22 世紀の奈佐の浜プロジェクト委員会委員長　小浦嘉門さんのごあいさつ

奈佐の浜ＰＪの実行委員長で、鳥羽磯部漁業協同組合桃取町支所理事の小浦嘉門さんが、答志島からこの交流会に来て下さいました。「学生たちがどのように奈佐の浜ＰＪのことを伝えるのか、どうやって活動を引き継ぐのかを見にきました。私はそろそろ(委員長の)辞任のあいさつをかんがえなければ、、、」と冗談交じりにお話をしていただきました。答志島がある鳥羽市の中村欣一郎市長（奈佐の浜 PJ のメンバーでもある）もおみえになり、ワークショップに参加していただきました。

「面白い環境活動を考えよう」ワークショップ

自分たちでやっていて楽しめるような、面白いと思えるような環境活動を考えよう！をテーマにワールドカフェ方式で９グループに分かれて対話をしました。アイスブレイクやランチミーティング効果によりリラックスした参加したみなさんは、楽しくにぎやかにお話をしていました。大学生からベテランまで、山の人、川の人、里の人、海の人、世代や地域を超えた交流ができました。

たくさんの「面白い環境活動」がうまれました

ワールドカフェ終了後、各グループでどのような話がされたのかを全体で共有しました。当初は、2，３グループからお話を伺う予定でした、話し合いが盛り上がったからなのか、すべてのグループが「我こそは！」と意欲的に発表してくださいました。

「レアなゴミには高得点を付けるなど、点数を競うゲームのようにゴミ拾いをすればいいのでないか」「漂流ゴミでアート作品をつくる」「浜辺を清掃して裸足でフランダンスを踊る」「ヨガやマラソンなど自分の好きなものと結び付けてゴミ拾いをするイベントを開催する」「環境のイベントに、例えばジビエ料理など地域の名産、地産地消の食事を入れ込む」「ローカル鉄道を利用した地元文化や自然資源に触れるエコツアーの実施」など様々なアイデアが生まれました。

また「まずは地域を好きになること。そうするとその地域を良くしたい、きれいにしたいという思いが芽生え、その積み重ねが環境を良くするのではないか」、さらに「環境活動は広域で取り組む必要性があり、行政の協力や行政区を超えた協働が必要なのではないか」などこれからの活動の指針となる意見もありました。

第３部【６つのテーマで分科会】『とにかくお話』

分科会テーマ	話題提供	進行（理事）
① 海の豊かさを守ろう	谷崎仁美さん（なたね通信 鈴鹿川清掃担当、自然観察指導員三重連絡会 事務局長）	渡邊理事
② 陸の豊かさを守ろう	坂本竜児さん（エコデザイン市民社会フォーラム）＊豊田市旭小渡へ移住	事務局
③ エネルギー	野村典博さん（森と水辺の技術研究会 代表）＊再エネ推進のしくみづくりについて	竹内理事長
④ 気候変動と災害	小野月比古さん（名古屋ひがし防災ボランティアN.W. 代表）＊近年激甚化する自然災害の現場より	小野理事
⑤ 働きがいも経済成長も	根岸恵子さん（多世代学びあいネットワーク代表）＊働き方って、生き方だ！	辻理事
⑥ つくる責任・使う責任	永田秀和さん（中部リサイクル運動市民の会代表） ＊3R 推進事業について	中川副理事長

ーあなたはこの日、何人と語り合えますか？ー

【話題提供】各テーマごとに、地域で SDGｓの視点で取り組む事例の紹介

第３部の分科会では、参加者が希望のテーマに分かれて話し合いを行いました。まずは、15分間ほどの事例紹介。その後、「若者の WS での（若者と交流しての）気づき」「現状、課題と思うこと」「あるべき論にとらわれない解決の方途」の３つのお題について話し合いを行いました。

【3～4 人の少人数でじっくり話す】

話し合いの留意点は以下の２つ

- 自分のフィールドに戻って活かせることを考える。
- 落とし所なし。とにかく自分自身に落とし込んで行く

《分科会①》海の豊かさを守ろう

《分科会②》陸の豊かさも守ろう

第３部【６つのテーマで分科会】『とにかくお話』

－あなたはこの日、何人と語り合えますか？－

《分科会③》エネルギー

《分科会④》気候変動と災害

《分科会⑤》働きがいも経済成長も

《分科会⑥》つくる責任つかう責任

【アンケートの声より】

今回の分科会は、「とにかくお話」というタイトルの通り、参加者がなるべく多くの人と意見交換できる手法とし、それぞれが自分の腹に落ちる話し合いが行われることを狙いとしました。アンケートのまとめは後日となりますが、分科会に関するアンケート記述を概括すると

●若者の満足度は高い

多くの方の話を聞けて、いろいろ質問出来て、大変ためになったという意見が大半でした。（若者特有のやさしさもあるか？）

●ベテランの満足度は両極

一方、ベテラン活動者の声としては、次世代へ活動をひきつぐことの大切さを感じている層の満足度は高いようですが、それ以外では SDGｓの説明が腑に落ちず関連がよくわからない、お題の内容が的を射ていないと感じた、という意見が見受けられ、課題を俯瞰してみること、関連性を考えてみることに不慣れな様子がうかがえました。

全体会　閉会式　『学生交流会』発起人挨拶・閉会挨拶

分科会終了後、再び会議室に集結して全体会を行いました。最初の 30 分は、竹内理事長の進行で各分科会を代表して若手による報告を行い、講師の木村さんから好評をいただきました。その後、今回の交流会第２部「次世代が作るワークショップ」を担当した奈佐の浜 PJ・学生交流会の発起人である下田菜生さんと見屋井一輝さんからご挨拶をいただきました。

◆22 世紀奈佐の浜プロジェクト「学生交流会」発起人挨拶

↑下田　菜生さん

見屋井一輝さん↑

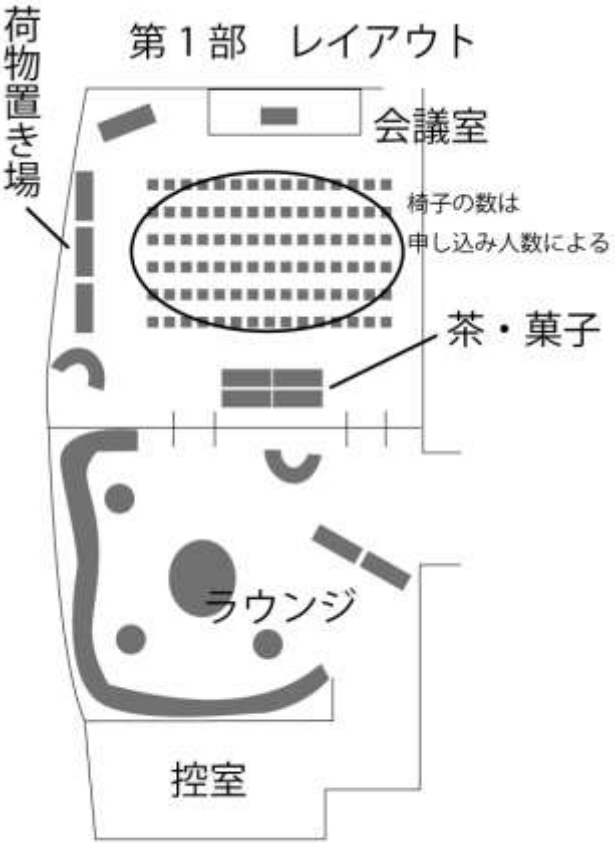
◆閉会挨拶

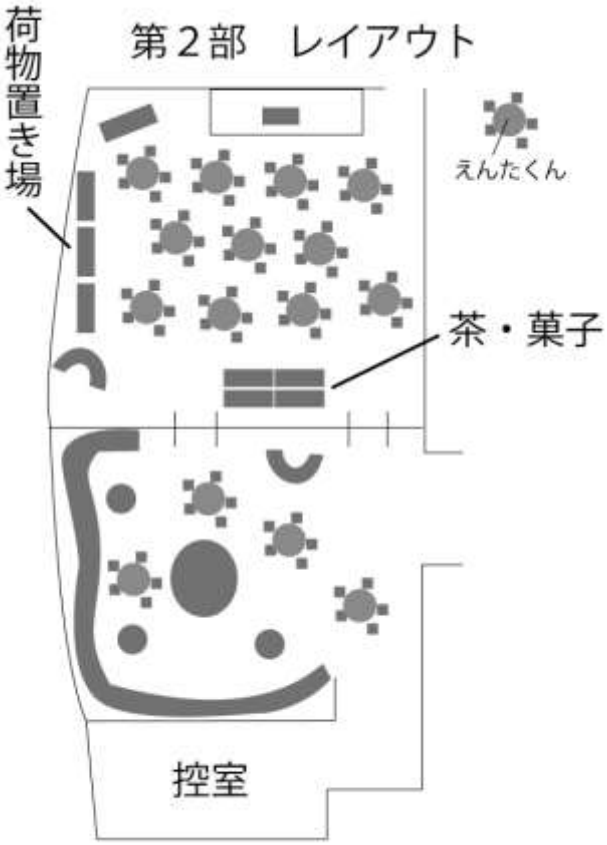
↑森と水辺の技術研究会　野村典博さん　セブン-イレブン記念財団事務局長 星劭さん↑

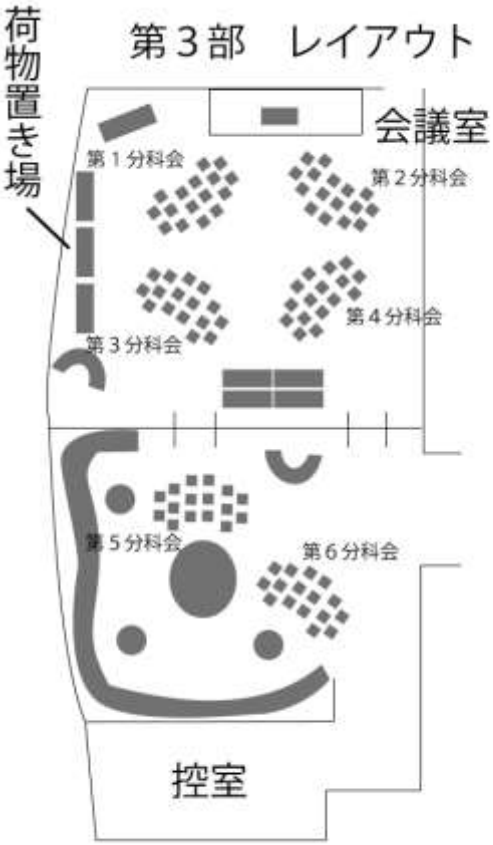
最後に、共催団体を代表して「森と水辺の技術研究所」理事長 野村典博さん、主催団体を代表して「セブン-イレブン記念財団」事務局長の星劭さんから閉会のあいさつがありました。野村さんからは、世代交代や若者の思いを尊重することの大切さについて、星さんからは企業と環境活動、全国の素敵な取り組みについてお話がありました。

★参加者全員で記念撮影！★

会場：名古屋国際センター５Ｆ　第一会議室







新聞にて紹介されました！

環境保全活動 持続を考える

中村で情報交流会

全国各地で担い手の高齢化や不足が課題となっている環境保全活動の持続を考える「山川里海　情報交流会」が二十三日、中村区那古野一の名古屋国際センターであった。

NPO法人「地域の未来・志援センター」（東区）などが主催し、東海三県から五十人が参加。海草のアマモの移植などで東京湾再生に取り組んだNPO法人「海辺つくり研究会」（横浜市）の木村尚事務局長が基調講演した。

木村さんは「生物多様性を守るには、人間にも多様性があると気付くことが重要」と強調。活動を知ってもらうためにかるたや音楽を作ったり、神事を行ったりして地域に溶け込んだことを紹介した。次世代に活動をつなぐためには「大人と子どもが学び合う場が必要」と訴えた。

交流会では、岐阜大や四日市大の学生による伊勢湾岸の清掃活動の様子などが紹介された。

多くの人に環境保全活動に参加してもらう仕掛けを紹介する木村さん＝中村区那古野１の名古屋国際センターで

2019 年 2 月 24 日中日新聞朝刊掲載